

## 直腸癌における術前化学放射線療法の効果予測および予後予測に関する研究

### 1. 研究の対象

2001年から2007年までの間に防衛医科大学校病院外科で術前化学放射線療法の後に手術をうけられた直腸癌患者さん105名、および1990年から2010年までの間に防衛医科大学校病院外科で術前化学放射線療法を施行せずに手術をうけられた直腸癌患者さん200名

### 2. 研究目的・方法

直腸癌では術前化学放射線療法を行うことで、局所再発が減少し、肛門温存手術の割合が増加することから、欧米では標準治療と考えられております。しかし、肛門機能低下や縫合不全などの合併症が発生したり、また術前化学放射線療法が無効で、腫瘍の増大が認められる場合もあります。

これまでに防衛医科大学校外科学講座では、倫理委員会の承認を得て、直腸癌における術前化学放射線療法の有用性について検討をすすめてきました。とくに、術前化学放射線療法前にその治療効果が予測可能か否かを明らかにするため研究をすすめ、新しい知見を得ております。この結果を受け、今後は治療効果予測のみならず予後予測の観点からもさらに詳細な検討が必要と考えております。もし治療効果が十分な精度で予測可能となれば、無意味な術前療法を回避できるという点において臨床的に有意義となります。また、治療前後の情報から予後が予測可能となれば、適切な補助化学療法が選択可能になります。

手術検体・生検検体における各種タンパク発現および臨床情報（治療前後の採血結果・画像所見・内視鏡所見・手術の内容、病理結果、手術後の経過、手術後の治療内容等）と治療効果との相関について検討します。研究期間は平成31年2月までです。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

手術検体・生検検体および臨床情報（治療前後の採血結果・画像所見・内視鏡所見・手術の内容、病理結果、手術後の経過、手術後の治療内容等）を使用いたします。

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2

防衛医科大学校病院 外科 神藤 英二

TEL:04-2995-1511 (内線 2356)

研究責任者：

防衛医科大学校外科 上野 秀樹